

様

生物多様性なごや戦略しみん検討会議
愛知学泉大学教授 矢部 隆

生物多様性センター（仮称）に係る第3回目勉強会のご案内

名古屋市では現在、市民との協働による生物多様性なごや戦略（生き物と共生する持続可能な都市なごやを実現するための指針）の策定を私ども「生物多様性なごや戦略策定会議」において進めており、この戦略を進めていくための基軸施設としての自然史博物館あるいは生物多様性センターが必要であるということも検討しております。

そこで、この問題を私どもだけでなく、様々な分野の方と一緒に考えようと、情報の共有と意見交換を行う「生物多様性センター（仮称）に係る勉強会」を開催することとしました。

第1回目の勉強会は、10月30日に、瑞浪化石博物館でご活躍の地質学者・糸魚川淳二先生（名大名誉教授）をお招きして、博物館の必要性とその機能について学んで参りました。意見交換の中では、標本の収蔵施設を持たなければセンターの機能として成り立たないということが発言されておりました。

第2回目の勉強会は、11月24日に、生い立ちから多くの市民が力を発揮し、現在は「友の会」活動で市民と協働した博物館活動を展開している、大阪市自然史博物館の佐久間氏を招いて、生い立ちと初期の博物館活動、膨大な標本を収蔵する意味、市民協働で特長のある現在の博物館活動についてお話をお聞きしました。

今回は、愛知教育大学の芹沢先生にお願いし、「生物多様性の保全と拠点機関の役割」と題して様々な例を上げながら「拠点機関がないとどう困るか、拠点機関の役割と気をつけたいこと、名古屋で何が可能か」をお話いただき、皆さんと意見交換します。

お知り合いに声をかけて、ご参加ください。

初めての方も大歓迎、入場無料です。

日時 平成22年1月28日(木)
午後6時から
場所 東生涯学習センター
(東区葵一丁目3-21
052-932-4881) 視聴覚室

